

一般社団法人日本機械学会 第16回標準事業表彰 選考結果

貢 献 賞			
	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	白瀬 敬一 神戸大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授	生産システムソフトウェアの日本工業規格確立への貢献	平成12年から現在に至るまでISO/TC284/SC5/WG4国内対策委員会委員、製造科学技術センターのISO/TC284/SC5/WG4国内対策委員会委員、精密工学会のJIS原案作成のための委員会委員を務め、産業オートメーションシステムの国際標準化活動に参画してきた。生産システム、特に自動化工場内の制御・管理に用いられるソフトウェアに関わる標準化に尽力した。国際規格のISO16100シリーズの完成に協力するとともに、これを翻訳した国内規格の制定では原案作成委員会委員としてJISB3900シリーズの完成に大きく貢献した。特に、ソフトウェアの再利用やこれを用いた開発の効率化のための方法論として国内規格のJISB3900シリーズは広く注目されており、規格の普及に大きく寄与している。
2	鎮西 清行 国立研究開発法人産業技術総合研究所 健康工学研究部門 副研究部門長	手術ロボットの国際規格IEC80601-2-77:2019の策定を国際プロジェクトリーダーとして主導	IEC/TC62/SC62D(医用電気機器)とISO/TC299(ロボティクス)の合同WGにおける国際プロジェクトリーダーとして、IEC80601-2-77:2019(手術ロボットの個別安全性要求規格)の策定作業を主導した。手術ロボットは機械工学の各分野を集約した応用分野として今後益々重要な位置付けとなる。特に今後は、人工知能(AI)や術中計測情報による精緻な手術手技を行う研究開発が盛んになると考えられ、本標準化はその基盤の考え方となる重要な規格である。また、医療機器分野では規格は遵守する必要がある、産業化に対しても重要な規格である。
国 際 功 績 賞			
	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	吉原 三智子 一般財団法人日本自動車研究所 電動モビリティ研究部 標準化グループ 主任研究員	長年にわたるISOの電動車両の国際標準化の主導	2004年JARIに入所以来、ISO/TC22(自動車)/SC37(電動車両)の国内審議団体事務局として、電動車両(EV)の標準化活動に一貫して携わっており、2007年以降はSC37の国際幹事として、またSC37傘下のWG1(EV安全)のエキスパート、WG2(EV性能)およびWG4(電機駆動用部品)の国際幹事として、会議の運営・議長補佐・審議参加・記録を献身的に行ってきた。その結果、ハイブリッド電気自動車(HEV)、プラグインハイブリッド電気自動車(PHEV)、燃料電池自動車(FCV)等EVの燃費試験法、性能試験法、安全性に関する日本提案5件の国際標準化を達成し、EV用モータシステムの性能・信頼性等に関する日本提案4件の国際規格が発行待ち状態である。SAEに関しても、国内対応WG事務局として、国内専門家の意見を取りまとめた上でコメント活動を行い、SAE規格への日本意見反映に貢献した。

コードエンジニア賞

	受賞候補者名	業績名	推薦理由
1	<p style="text-align: center;">大谷 章仁</p> <p>株式会社 IHI 資源・エネルギー・環境事業領域 原子力 SBU 配管設計部 技術グループ 主幹</p>	<p style="text-align: center;">弾塑性応答解析に基づく耐震 S クラス配管の耐震設計に関する代替規定の策定</p>	<p>原子力プラントの配管の耐震設計は、弾性解析による評価手法により非常に大きな裕度を内包していることが広く認識されている。一方、原子力発電所の新規制基準では、耐震設計において従来を大きく上回る設計用地震動の想定が求められており、より合理的な評価手法の整備が強く望まれてきた。そこで、本会発電用設備規格委員会傘下の配管耐震許容応力検討タスクでは、弾塑性応答解析とひずみベースの疲労評価を柱とした新しい評価法を開発し、事例規格として策定した。</p> <p>候補者はこのタスクの幹事として事例規格の策定において中心的、主導的な役割を果たした。また、技術的にも原子力プラント配管の耐震設計の分野における経験と知見を十分に活かし、既往の研究成果と最新の知見を調査検討し、実機評価に適用可能な解析評価手法を策定することに大いに貢献した。</p>